

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302149		
法人名	医療法人 健脳会		
事業所名	グループホーム健脳ハウス 1階		
所在地	福島県郡山市富田町字稲川原57番地		
自己評価作成日	平成29年8月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成29年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは母体がクリニックの為、医療面において強力なバックアップ体制が整っており、看取りにも積極的に取り組んでいます。入居者様は安心して生活ができ、ご家族様にも安心していただいております。また、書道・音楽・レクリエーション・花・ドライブなどのクラブ活動や、四季折々の行事を通して季節感を味わっていただき、脳の活性化を図り認知症の進行を抑制する取り組みを行っています。当法人のモットー「今日も元気で」を合言葉に、職員は毎日元気に、入居者様と一緒に日常生活を送っております。日々の生活の中で入居者様の笑顔をよく引き出せるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、職員の労働環境の整備や研修を実施し、職員が働きがいを持てるように、毎月目標をたてて取り組んでいる。利用者に向けた個別の適切な支援がされており、利用者の表情は落ち着いて笑顔がみえている。利用者は笑顔で安心して過ごし、職員は表情よく仕事に取り組み、それぞれが落ち着いた生活ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をスタッフルームに掲示している。いつでも確認できるように全職員ネームケースに理念が書かれた健脳会スピリットを携帯している。朝礼では法人のモットーを唱和し意識を高めるようにしている。各職員、理念を意識し実践できている。	職員は、常に笑顔を決やさないで、を大切に利用者に接し、一人ひとりの思いに対応している。利用者の表情は良く、落ち着いている。事業所が安心した生活の場所となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩や買い物等で地域の皆様と交流を図っている。近隣にあるデイケア、デイサービスに通われている地域の方との交流がある。	中学生の職場体験学習を受け入れて、交流している。事業所の祭りや、季節の行事の開催時には、地域の方や、通所サービスの利用者にも積極的に声掛けして参加を促している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当法人クリニックにて無料介護相談を実施しており、相談内容によっては入所相談、またデイサービス、デイケアと連携を図りながら、見学も随時行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ヒヤリ、事故の発生状況、各クラブ活動や日常のサービス実施状況の報告を行い、それらに対して委員の皆様から意見やアドバイスをいただきサービスの向上に努めている。	行事開催後の会議では、出店の内容やダンス等の反省点を聞き取り、次回に生かしている。今年の風船バレーボールは、利用者の、普段は見られない動作が見られとても良かったとの意見が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の実地指導での指摘事項について改善し、質の向上に努めている。不明な点については、その都度、市へ確認し業務にあたっている。また、市から派遣されている介護サービス相談員が月2回来所され、アドバイス等を運営に活かしている。	介護サービス相談員を受け入れていて、利用者は、楽しみにしている。食前体操や、座ってできる簡単な体操を教えてもらい、毎日の日課として実施している。法人で介護相談を実施していて、市の包括支援センターと連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内での勉強会や、外部の研修にも参加している。ミーティング等でも適時、身体拘束について話し合っている。玄関の施錠については交通量が多い道路に面しているため、市の監査で安全のため施錠をしたほうが良いと指摘があり、施錠を行っている。	事業所内では利用者は、できるだけ自由に動き、残存能力を維持できるよう支援している。見守り機能付きの介護ロボットを、試験的に導入していて、歩行困難な利用者を拘束しないでも起居動作を察知し、適切な対応ができるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で定期的に勉強会を実施している。介護職員、入居者間の馴れ合い、感情的な言動や態度を防止する意味でも数ヶ月ごとにスタッフの配置換えを行っている。(1、2階の移動)さらに、各月のミーティング時にてお互いに対策を講じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会を事業所内で行った。現在利用されている方はいないが、今後関わる機会はあると思うので、その時にスムーズに説明や活用ができるように今後も定期的に勉強会を実施していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、契約書を確認していただきながら説明を行い、納得いただいてから署名、捺印をしていただいている。また、介護保険改正で、料金等に変更があった場合は、文書でお知らせし、疑問や不明な点は十分な説明を行い署名をしていただき、理解と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が気軽に意見を表せるように面会時に記入していただくカードに一言自由欄を設けている。また年一回の家族会にて無記名のアンケートを実施している。結果について分析を行いそれらを運営に反映させている。日常的な会話などから、意見、要望を耳にした場合はミーティングで話し合い解決している。	家族の訪問時、何でも言ってもらえる様な雰囲気作りに留意しながら、利用者の日頃の様子を話し合っている。ドライブで買い物に行った時、縫いぐるみ等は本人が欲しがっても買わないで欲しい、との要望に、認知の状態によって職員が判断し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長、副理事長はほぼ毎日事業所に顔を出し、事業所の運営状況の把握に努めている。年2回、副理事長との面談の機会があり、自分の意見や提案等を伝えることができる。また、管理者はミーティングではもちろん、日常の会話などからも職員の意見や提案などを聞いて、運営に反映させている。	管理者は日常的な関わりの中で常に、職員の意見や要望を聞くよう心掛けている。利用者が起き易い様、ベットの手すりの位置を変えたいとの意見に、全職員で話し合い、試し合って改善に繋いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職は定期的に職員個々の勤務実績や努力を評価している。各個人、毎月目標を1つ決めてもらったり、行事やクラブの担当を持つことでやりがいと向上心を持って仕事に取り組むことができている。きちんと休憩、退勤ができるようお互いが声掛けし合える環境を作っている。数年前に年間休日が10日増え120日になり労働環境の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年5回、法人内での勉強会を実施している。また事業所内でも毎月題材を決めて勉強会を実施し、事業所全体でのスキルアップを図っている。外部研修の案内も掲示し、希望者には参加していただいている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修、勉強会に積極的に参加している。その中で地域の同業者との交流がありネットワーク作りに努めている。取引業者との交流も良好で、当ホームで開催した祭りにも参加していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談があった時点で、本人が困っている事や不安、要望を汲み取り、安心して生活ができるよう良好な関係づくりに努めている。また、入居後も本人の要望を汲み取るためのアセスメントを継続して行い信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談があった時点で、家族が困っている事や不安、要望を汲み取り、話し合いを重ねて良好な関係づくりに努めている。また、入居後も常に連絡や報告を行うことで良い信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点で、本人にとってグループホームに入居することが本当に良いことなのか、ご本人様、ご家族様、担当ケアマネージャーとよく相談した上で入居を決めていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除等、本人ができることを見極め、できることは職員と一緒にさせていただいている。その事で、やりがいや生きがいにつながるように支援し、共に暮らすパートナーとしての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様の不安や悩みに共有し、ご家族様の本人に対する思いを大切にしながらサービスの提供をしている。ご家族様を交えて、ご本人様に本人らしい生活が送れるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様以外の親戚や友人、知人の面会も時々見られている。またご家族様とお墓参りに行かれたり、外泊されご自宅でご家族様と過ごされる方もいる。ドライブクラブで馴染みのお店や温泉地などへの外出も定期的にある。	定期的に家族に電話をしたり、外食を楽しんだりと継続的な交流が出来ている。家族と一緒に通い慣れた美容室へ行ったり、お正月を過ごす等、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の相性や関係性などを把握し、入居者同士でも自然とコミュニケーションが取れるように努めている。認知症が重度化していくと、入居者同士のコミュニケーションも難しくなっていくが、そのような方でも孤立することがないように、スタッフが間に入り、平等にコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられて契約終了という方がほとんどなので、終了後も関係が続いている方は現状いないが、亡くなられた後の手続き関係のフォローや、ご家族様からの質問などにはしっかりと対応している。今後も必要時は、フォロー、相談、支援に努めていきたい。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日常的な会話、言動から本人の希望や意向の把握に努め、いかに本人の思いを実現できるかをミーティング等で検討して、本人の思いを職員間で共有するように努めている。	丁寧な見守りにより、日々の関わりの中から気付いた事を職員間で話し合い共有し、毎日笑顔で過ごし、安心して暮らせる場所になる様支援している。困難な場合は、職員を変えたり、一人ひとり声掛けを工夫しながら意思の疎通に繋いでいる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居契約時に、ご本人様、ご家族様からこれまでの生活歴や、本人に関する生活環境等を細部にわたって聞き取りを行い、これまでの暮らしを把握できるように努めている。また、ご家族様面会時はコミュニケーションを図り、ご本人様の昔の事など、新たな情報が得られるようしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らしを把握した上で、本人のライフスタイルや心身状態、保有能力等個々の状態把握に努め、その人らしい生活がホームでも継続できるように支援している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適時アセスメント、モニタリング、カンファレンスを行いその方の現在の状態に合わせケアプランの変更を行っている。また本人の現状を細かく報告した上でご家族様からのご意見、ご要望も取り入れてチームで話し合いを行い、現時点での本人のニーズや必要なケアを見極めて介護計画を作成している。	日々の関わりの中から、利用者の少しの変化も全職員で話し合い、意見交換を行い、現況に即した計画作りに繋いでいる。状況の変化に応じ、その都度見直し、家族に連絡している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等については、介護計画に沿って介護記録を行っている。また、少しでも気付いた事などは申し送りに記録し、ミーティングで話し合い、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する入居者様の状態やニーズに対応できるように、勉強会などを通して職員全体でスキルアップを図れるようにしている。また、医師、看護師、他部署のOT、PTとも連携し柔軟な支援ができるように今後も務めていく。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体の方などが、踊りや演奏などを披露して下さり、入居者様も楽しんでいる。散歩等外出することで地域の方々との社会交流があり入居者様の笑顔にも繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望が当法人のクリニックで、定期的な受診を行っている。また、医師と常に連携がとれる体制が整っているため、入居者様、ご家族様共に安心していただいている。より詳しい検査等が必要な場合は専門的な病院を紹介して受診していただいている。	利用者は、定期的な往診を受診している。専門科の受診時には、職員が利用者の状況報告書を家族に渡している。受診後には必ず報告を受けている。また、職員が家族の代理付き添いで受診する事もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、毎朝バイタルチェックを行っている。状態変化の早期発見に務め、必要時には、医師、看護師に報告し指示を仰いでいる。指示があればすぐに受診している。入居者様の健康で気になる事があれば医師、看護師に相談できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ここ数年は入居者様が入院されたケースはないが、今後そのようなケースが発生した場合は、病院側との情報交換や相談に務め、入居者様ができるだけ早期に退院できる環境作りを行っていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時には、「終末期をどこで迎えたいか」の現時点での意思確認を行っている。終末期に入る際は、主治医より、ホームでできること、入院という選択肢など十分な説明を行い、再度意思確認を行っている。主治医、看護師、介護職員の情報の共有化を図り、ご家族様に常に状況の報告を行っている。	身体状況の適切な情報を提供し、家族や利用者信頼関係が築かれていて方針を共有している。ほとんどの利用者が、事業所内で最期を迎えている。家族も泊まり込み付き添いしたり、職員と共にエンゼルケアをしたりしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時はバイタル測定と入居者様の状態把握を的確に行い、正確に医師に状況を伝えるように統一している。軽微なものであれば、ほとんどの職員が対応できる。定期的に急変時の対応、病気についての勉強会も実施しておりスキルの向上を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間想定避難訓練、DSと合同での避難訓練を実施している。避難訓練では毛布を活用して階段で避難誘導する訓練も行っている。災害時などは隣のコンビニから協力を得られるような体制を築いている。消防署にも連携が図れるように協力をお願いしている。	地域の消防団と連携して取り組むために協力依頼している。今後は、近くに河川があるが高台が遠いので、建物内の垂直移動の訓練など、自然災害を想定した訓練や食料・日用品の備蓄も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロアで入居者様の尊厳、プライバシーに関わる話をする時は、名前ではなく居室番号などで話す、小声で話すなど、その方のプライバシー、尊厳を損なうことがないように気を付けている。入居者様が尊厳を持って生活ができるように言葉遣い、対応に注意している。	利用者を必ずさんづけで、名前をよんでいる。職員同士の会話時には略語を使い、利用者がわからないようにしている。失禁時には、すぐ近くに寄り添い、小声で話し動作を促してプライバシーや尊厳を確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事もご本人様の意思や希望を確認するようにしている。(クラブの参加、お菓子を選ぶ等) また、希望の表出が困難な方に対しては、表情や言動を見極めて自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が落ち着かない、入居者様からの訴えがあるような時は、業務の手を止めて入居者様を最優先している。全体のペースに合わせていただくのではなく、ある程度ご自分のペースで生活が出来るようにしている。(起床、入床、食事時間など)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方は、ご自分で着たい服を選ばれている。介助が必要な方でスタッフが服を選ぶ際は、ご本人様の好み、上下の組み合わせ等を考えて選んでいる。毎月、訪問理美容にてカット、パーマ、カラーなどお好みで行っていただいている。化粧をする習慣のある方はご自分で毎日化粧をされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には盛り付けや食器洗いなど行っていたいっている。食べたいもの等を入居者様に聞きながら食事メニューを考えている。年末には餅をついて食べたり、冬至かぼちゃを作って食べたりと食事でも季節を感じ楽しんでいただけるよう支援している。	利用者と職員が、同じテーブルに座り、当番利用者の声掛けで挨拶して食べ始めている。利用者が、食べられる状態に盛り付けして、声掛けしながら促し、できるだけ自分で食べられるように見守りしている。行事の料理は利用者も手伝い、みんな楽しんでる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やトロミをつけるなど個々の嚥下状態、口腔内の状態に合わせて対応している。主治医の指示に従って食事量、内容など変更している。お茶やお水が苦手な方は、別のもの(野菜ジュース、コーヒー、ゼリー)などで無理なく水分摂取していただけるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施しており、その方の能力に合わせた介助を行っている。必要時はご家族様に了解を得て、訪問歯科を受診している。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの訴えをうまく表現できない方は、定時の誘導を行っている。トイレの訴えがうまくできない、トイレの場所が分からないなど個々の排泄失敗の原因の把握に努め、スタッフ間で共有することで排泄の失敗の数を減らせている。	トイレの場所を分かり易くする為、大きな文字で表示したり、壁に矢印を貼る等、工夫しながらトイレでの排泄支援を行っている。尿とりパットは時間帯により大きさを換え、夜間は睡眠を邪魔しない様大きなものを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、ヨーグルト、オリゴ糖、センナ茶、腹部マッサージ等、個々の状態に合わせて対応している。また便秘予防の為に、牛乳や野菜ジュース等を提供したり、散歩や体操を実施している。食時メニューは野菜や食物繊維の多いものを使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には1日おきに入浴できるように支援しているが、希望があれば臨機応変に対応している。また入浴拒否がある方などは無理強いせず、ご本人様のペースに合わせている。バスリフトを導入しており、湯舟に入るのが困難な方で湯舟につかることができるように対応している。	のんびり・寛いで入浴を楽しめる様、利用者の要望があれば同性での支援を行っている。季節によって、菖蒲湯・柚湯等を行い利用者の楽しみになっている。入浴後は保湿クリームで乾燥を予防している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、入床時間などある程度ご本人様のリズムで行っていただいている。日中の臥床なども自由に行っていただいている。また、介助が必要な方で、リビングで傾眠されている時は、居室へ誘導し臥床していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が飲まれている薬の名前、効能、注意事項が記入された用紙がファイリングされており、いつでも確認できるようにしている。服薬介助時は誤薬がないように職員2名でチェックを行っている。薬が変更になった場合は、状態の変化等をミーティング等で話し合い、適時、医師に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や性格などを把握し、気持ち良く、家事(掃除、洗濯たたみ、食器片付け、調理)を手伝っていただけよう支援し、喜びや張り合いを感じていただいている。各種クラブ活動や、個々の趣味(歌や手仕事など)を楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブクラブで外出の計画を立て、買い物や外食、足湯、お花見などに出かけている。計画する際は入居者様に行きたい所など希望を聞いている。自宅で生活していた時より外出の機会がありご家族様も喜ばれている。また入居者様の希望に合わせて、散歩や隣のセブンイレブンに買い物に行くなど外出支援を図っている。	日常的に事業所周りを散策し、気分転換を図っている。近くのスーパーで好きな服やおやつを選んだり、フードコートでアイスやたい焼きを食べて来る等、積極的に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族様より、預かり金規定のもと、お金を預っている。ご本人様が購入したいものがある時は、ご家族様に了解を得て購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話は設置されていないが、電話をかけた時は、職員に言ってかけることができる。手紙のやり取りも自由に行うことができる。自室に電話を引くことはできないが、携帯電話を持つことはできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温は職員の主観ではなく、入居者様に確認したり温度計を活用し快適な環境を提供できるようにしている。庭、ベランダには入居者様が植えた花や野菜があり季節を感じていただけるようにしている。リビングの大きな手作りカレンダーは季節を感じられる内容になっている。	清掃が行き届き隅々まで清潔に保たれている。広いフロアは、歩行の訓練をしたり、気の合った利用者同士がテレビを見たり、おしゃべりしながら思い思いに日中を過ごす場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆様思い思いに生活されており、リビングで入居者様同士でテレビを観たり、話を楽しまれている。職員も話に混ざりながら楽しく生活されている。またご本人様のペースで居室で臥床されたりなど自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	居室は個室で鍵をかけることもできる。エアコンも設置されており居室でも快適な生活ができる。押入れも広く整理しやすいので安全に生活できる。家具や布団などは使い慣れた私物をなるべく持ち込んでいただき、自宅で生活していた時と変わらないような環境整備を心がけている。各居室は個々のお好みに合わせて自由に使用していただいております。若しこころに趣味で書いた俳句や写真を飾られたり、家族や施設での写真を飾られている。	担当職員により季節の衣類や小物が、見易く、出し易い様、押入れの整理整頓がされている。仏壇や使い慣れた鏡台が持ち込まれ、居心地良く、自分らしい生活が出来るよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方も安全に生活できるように廊下、トイレ、浴室等に手すりが設置されている。トイレや浴室等分りやすいように目立つ看板を貼っている。各居室も分りやすいように、表札の他に顔写真を表示している。		